

「カシミア号乗組員救助にまつわる『紀徳碑』」 伝承活動の取組

1 学校名

西之表市立伊関小学校

2 学年・人数

小学1年生～6年生（計12名），大人（38名） （計50名）

3 場所・日時

(1) 練習

毎月9月20日・紀徳碑前広場

(2) 発表

11月初旬の日曜日・伊関小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる史跡の名称・由来・特徴・活動について

(1) 名称（ふりがな）

紀徳碑（きとくひ） ※ 西之表市有形文化財

(2) 時代

明治18（1885）年9月20日午後10時頃、伊関小学校下の海岸で漁をしていた古田貞吉翁は、アメリカ商船カシミア号が暴風雨のため遭難し、漂着した乗組員5名を発見した。その後、古田翁は彼らを鎌倉平兵衛氏宅に搬送し、村世話役人池亀覚助と連携し、村人から集めた食べ物や着物を与え、介抱に誠意を尽くした。

カシミア号乗組員の帰国後、この出来事はアメリカ議会に知らされ、感謝の意をもって伊関・安城両地区に対して5千ドルが贈与された。（当時の日本円で6千5百円：この頃の教員の月給が2～4円，6千円あれば軍艦が1隻買えるほどの大金だった。）

伊関・安城地区の人々は、この贈与金を二分しようとしたが、当時の外務大臣大隈重信からお金のことで無用な争い事を招かないようにとの進言があったことを受け、その使い道としては「教育」に活用することとした。両校区では、この贈与金を使って立派な校舎を建てるなど教育の振興に努めた。

校区民は、明治23年に5千ドルの贈与に対する感謝と先人の美德の継承、カシミア号の遭難で命を失った3名の霊を慰めるため紀徳碑を建立した。伊関地区では現在も毎年9月20日に紀徳祭をとり行っている。この紀徳碑は、前面に漢文、裏面には英文で出来事の由来が刻まれ、太平洋戦争中も村人によって大切に守られ、当時の姿を今に残している。

(3) 特徴

伊関小学校では、カシミア号の伝承について調べ学習や講話によって学び、毎年9月20日の「紀徳祭」には校区民とともに参加し、亡くなった方々への供養と先人への感謝を行っている。また、高学年の児童は、学習発表会においてカシミ

ア号漂着に関する劇やプレゼンテーションを行うなどして校区内の方々に学習成果を発表している。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年、西之表市長も参加する紀徳祭では、紀徳碑に新しい注連飾りをはじめ星条旗と日章旗を飾っている。校区では、平成24年度に西之表市指定文化財を要望し、その年の10月に紀徳碑を含む7基（介抱の家碑、美德伝承の碑、米国人漂着地趾、吉田貞吉翁生家の碑、安城の紀徳碑、立山の米国人漂着碑）が西之表市の有形文化財に指定された。平成27年はカシミア号漂着130周年に当たり、記念式典の実施計画も進められている。

6 活用の取組の工夫した点

低学年の児童は、紙芝居等を使ってカシミア号漂着の美談に触れ、中・高学年の児童は調べ学習を行った後、当時の様子を劇で再現している。また、道徳の時間にも命の尊さや親切についてカシミア号の話を使って「カシミアの心」（生命尊重、思いやり、感謝等）を身に付けていけるように指導している。また、紀徳碑の掃除を行い、石碑を大切に守っていく心も育てている。

7 取組の様子



【紀徳碑】



【紀徳祭の様子】



【劇・学習発表会】



【紀徳碑の清掃活動】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 児童

市長さんをはじめ沢山の方々が紀徳祭に参加しました。低学年の頃は、あまり意味が分からず参加していましたが、話を聞いたり調べたりするうちに伊関の紀徳碑には、とても大切な意味が込められていること知りました。

また、紀徳碑や紀徳祭は、私たち校区の誇りだと思うとすがすがしい気持ちになりました。

(2) 保護者

伊関小の子どもたちが思いやりのある子に育っていくのは、この紀徳祭に参加したりカシミア号乗組員漂着の話を学んだりしてきているからだと思います。子どもたちがふるさとの素晴らしい歴史を語り継いでいってくれればと思います。

(3) 保存会

明治18年当時は、村も貧しくて食べるのもやっとの時代だったと聞きます。そんな中で、初めて見る外国人を助ける先人の優しさや感謝の心を、子どもたちに紀徳祭を通して伝えていきたいと思います。

(4) 教職員

種子島は鉄砲伝来が有名ですが、アメリカ合衆国大統領及び議会、日本の外務省も関わったカシミア号の美談は、もっと沢山の方々に知っていただきたいと思います。また、毎年、子どもたちも欠かさず紀徳祭に参加していることに対し伊関の方々に心から敬意を払いたいと思います。